

お父さん本読んで！

読み聞かせは愛情体験



読み聞かせは、母親がするものというイメージが強くあります。

幼少期に読んでもらった絵本の声は、子守唄と同じで、語ってくれた人の声で記憶に残り、語ってくれた人の愛情体験として心に残ります。父親の低くて太い声は、子どもに力強い愛情を与え、母の声とはまた違った愛情体験として記憶に残ります。このページでは、市内で行なわれたお父さんの読み聞かせ講座を紹介します。

小河さん家族

父親と子どものきずな「ブックスタート」

読み聞かせの楽しい時間は、子どもとのコミュニケーションの時間になります。

2月16日、ふれあい館で開かれたお父さんのための読み聞かせ講座。

表紙に登場してもらった、日置健児朗さん・智子さん・澤ちゃん（1歳4カ月）《須屋》の家庭では、生後8カ月から読み聞かせをスタートしました。休日はパパが読み聞かせをします。「わんぱく盛りで、ちっともじっとして聞いてくれませんが、この時間を大切にしていきたい」と話す健児朗さん。澤ちゃんは、パパの膝の上で幸せそうに微笑み、本を読んでもらっていました。

小河健さん・知子さん・百合ちゃん（5カ月）《みずき台》の家庭では、生後3カ月から読み聞かせを始めたそうです。大好きな本は『おひさまあはは』。

「子どもの反応があると嬉しいですね。平日の出勤前など、ちよっとした時間をコミュニケーションの時間として読み聞かせなどをして過ごします」と話す健さん。両親の笑顔が素敵なのが印象的でした。両親が笑っていると、百合ちゃんもご機嫌で、絵本をにこにこ眺めていました。市では7カ月健診時にブックスタート事業を行い、2冊の赤ちゃん絵本を手渡し、家庭での読み聞かせを推進しています。

背中であかしている

「子どもは、背中を向けていてもちゃんと聞いています。お父さん・お母さんの声が大好きですから」「読み聞かせにルールはありません。楽しい時間を大切にして、決して感想は聞かないように。おもしろかったという気持ちを大切にしてください。」と話す子ども支援センターの米田稔さん。



子ども支援センター 米田さん

本を選ぶポイント

どんなベストセラーよりもお父さんが好きな本がとりかかりやすいでしょう。自分が感動したり、楽しんだりできた本を、子どもに話しかけるように読みあげてください。長い年月読み継がれた本は力があります。迷った時は、図書館で相談するのも一案です。

お父さん、読んで！

読み聞かせをとおして親子のふれあいの時間をもつことは、本そのものがもつ素晴らしい力と親の愛情が重なって、子どもの豊かな心を育みます。

お母さんだけでなく、お父さんも読み聞かせに参加し、親子で大切な時間を過ごしてみませんか。



お父さん・お母さんのための読み聞かせ講座

合志市立図書館では、講師を招き、読み聞かせ講座を実施しています。7月に開催を予定していますので、この機会に読み聞かせを始めてみませんか。詳しくは広報こうし6月号に掲載します。

中学生に読み聞かせ



中学生に読み聞かせる合志さん

絵本の力

- ・言語力
- ・集中力
- ・想像力

を育て、また、お話の中で喜びや悲しみを感じること、心が育ちます

合志中学校では、生徒の父親からなる「オアシスの会（会員31人）」による読み聞かせが行なわれています。「中学生に？」「父親が？」と驚いた人もいます。しかし、話を聞く中学生の顔は真剣そのもの。

携帯電話より本を

今の子どもたちの手の中に、常にあるものは携帯電話。生活は便利になる一方で、活字離れが目立ちます。「携帯電話ではなく、本を手にとつて欲しい。たくさん本と出合つて欲しい」と話すオアシスの会メンバー

合志峰治さん。「読み聞かせは、親が学校を訪れる良いきっかけにもなります。子どもたちは一生懸命聞いてくれて、自分たちも楽しみです」取材に訪れた日、合志さんは環境問題をテーマに、「北極ライフ」という絵本を選びました。本選びから、音読の練習まで、準備には時間を費やします。本は、心にゆとりがあつてこそ読めるもの。子どもたちが心穏やかに本を手にとつてくれることを願い、これからもオアシスの会の取り組みは続きます。

あとがき

「お父さんのための読み聞かせ講座」「中学生に対する、お父さんたちによる読み聞かせ」これらに「えっ！」と衝撃を受けたのはわたしだけ？取材中、親子の微笑ましい姿にほのほの。このように、育児に参加してこそ、親子の信頼関係といふものが築かれてくのではないのでしょうか。これを機に、たくさんの方が絵本を手にし、たくさんの方々が家庭に愛を注ぐことを願っています。